

日本の金石文③ 「般若寺門額」 年代不明

底面の大きさ
48 × 91 cm



奈良の都の北部に位置する般若寺は、奈良時代の創建と伝えられ、天平7年(735年)、聖武天皇が伽藍を建立したと伝えられている。平安末には廃れ、鎌倉時代になり再考されたといふ。ここに示したのは、嵯峨天皇の宸筆とされる「般若寺」の三字の門額拓本である。文字部分が僅かに凸になっており、陽刻の状態を示している。拓本から窺うに、文字部分は漆などで固められてあつたのであらうか。字画部分は木目が何かで覆われている。書風はやや重々しい趣の楷書である。右上に伸び上がるような筆勢の所為であろうか、全体に少し後にのけぞるような印象を感じさせる。点画は大変太く、まるで顔真卿の楷書の筆致であるが、顔真卿よりものびのびとした筆運びである。一字が、三十三センチ余りの大字である。第一回の唐招提寺の門額と共に、古代門額の名筆の一であろう。

現在、門額は、重要文化財であり、奈良国立博物館に寄託されている。写真の現在掲げられている門額(図②、③)は、複製品である。



図②



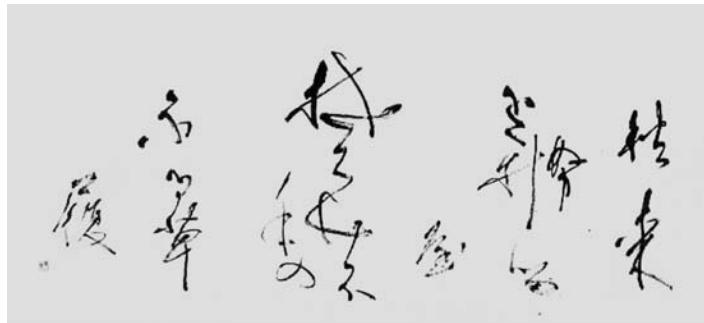
図③

書道芸術院

平成の群像 (2014)

8月

書泉会創立50周年記念



上 70×150cm 下 60×150cm



大辻多希子

この冬、ソチで開催された冬季五輪は、感動と興奮を世界に伝えて幕を閉じました。大きな期待を寄せながら思うような

結果を残せない選手にも称賛の拍手が送られました。

メダルに手の届かなかった選手が、大会

に出場するまでの努力を思うと胸が苦しくなり熱いものがこみ揚げました。

スポーツと書道

では歩む道は異なりますが、ひとつの道を志す者として、五輪選手のように血の滲むような努力をして来た

か、考える機会となりました。

「努力」とは、広辞苑によると、つとめる、精を出すこと、ほねをおること、とあります。

書作品は、その技術が内面を含め

は、61点でした。

一般、高校、小、中学生までの総出品数全紙作品の大作に交り、小学生の半紙に書かれた臨書に思わず足が止りました。楽しさが伝わってくる1年生の象形文字、九成宮醴泉銘は、2文字を凍としてすっきりと、中学生の顔真卿争坐位文稿は揮毫者名も古典の特徴を良く把握して書かれていました。

1年間に見る展覧会はたくさんあります。が、半紙に書かれた小さな作品を見学し、古典の素晴しさを学んだ子供達が将来も続けてくれることを願い、久し振りに感動した会場を後にしました。

師匠である下谷洋子先生の出会いから20数年になります。

日々精進することの大切さ、努力を惜しまない師匠の生き方に感動している。作品の一点一画をも疎かにしない厳しい姿勢から生み出されるから見る人を感動させられるのだと思います。

ひとつひとつ展覧会という目標に向い、感動できる作品を目指して、書き続けたいと思います。

た輝きと一緒に表現され、努力した結果、見る人を感動させができるのではないかと思います。

「自らが感動しないものを、人が感動するわけがない」とは西谷卯木先生がお話ししたと聞きました。

平成25年11月、長野県の佐久市立近代美術館に於て、佐久全国臨書展が開催されました。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

(公財)書道芸術院理事会開催

公益財団法人として昨年4月に発足してほぼ1年が経過した。初年度として継続した事業の他、関係規則などの整備も順次行って現在までほぼ順調に運営されている。

去る3月14日（金）午後2時より平成26年度事業計画、同予算案、並びに規定による昇格及び3年ごとに実行する特別昇格も審議され決定した。詳細は後日発表の院報にてご確認いただきたい。

* 主な事業内容

○ 第68回書道芸術院展、併催第66回国学生書道展の開催。

会期 平成27年2月17日～21日

会場 東京都美術館

一般公募・無鑑査搬入
作品・書類 26年12月19日

審査会員候補・審査会員搬入
書類 27年1月29日

作品 27年2月8日

一般展示表彰式（東博平成館大ホール）・学生展示研究会・表彰式、祝賀会（帝国ホテル）は2月21日（土）一日に全て行うため開催時間などは6月の運営委員会にて検討し、要項に発表す

る予定。

○秋季展・推薦作家展

会期 平成26年9月30日～10月5日

会場 セントラルミュージアム銀座

出品者 審査会員選抜作家約10名

審査会員候補公募入賞者50名

推薦作家5名（アートサロン）

○単位認定講習会

日時 26年8月23・24日

会場 和歌山県高野山

○創立記念日講演会

日時 26年11月23日午後2時～

会場 上野精養軒

○その他出版事業助成事業など

○その他の出版事業助成事業など

○その他出版事業助成事業など

を行う。

具体的な運動方針

①署名活動 要望書の内容を広報し賛同を得るため署名活動を行う。当面

50万人署名を目標とし、関係書道団体の協力のもと全国展開する。署名用紙などの準備整い次第ご協力をお願いしたい。

②募金活動 署名活動費用、今回要請のボイント、小学1・2年生からの毛筆書写事業の導入を促進するため研究授業用の材料費などを支援するため募金活動を展開する。

○夏期書道大会

○その他出版事業助成事業など

毎日展65回記念岡山巡回展盛会

昨年3月より全国展開された毎日展

65回記念巡回展の掉尾をかざる岡山展

が3月18日～23日開催され、最終日23

日に作品解説と席上揮毫を大雲担当、

小竹石雲実行委員長のもと大勢の観客

でにぎわった。会場は天神山文化ホー

ルを使用、400点余の巡回展作品、地元

審査会員以下の出品作品は充実、さら

に本年開催された国際高校生選抜展の

大臣賞はじめ上位入賞作品、中国4県

の入賞入選作品50点も飾られ素晴らしい

展示であった。

昼夜から祝賀会は文化勲章ご受章の高木聖鶴先生、江田五月、逢沢一郎両衆議院議員、恩地春洋名誉顧問もご臨席いただき盛会であった。



ご来賓の先生方と（岡山）

院審査会員以上であれば推薦します。

現代詩文書（一）

熊谷宗苑

前衛書（一）

大石仙岳

現代詩文書に取り組んでどれほど経つただろう。数えてみると恐ろしくなるほどの年月ですが今をして暗中摸索の道のりです。「私の主張」のタイトルに沿うことができるか不安ですが

文章にする作業の中でこれまでの反省とこれから展望が見い出せればと思っています。

現代詩文書との出会いは、師小野寺逢仙先生に師事してのことでした。宮城野書人会の加藤翠

柳先生を先頭に各先生方が芸術院展、毎日展等に精力的に取り組んでおられたのだと思います。出品を勧められましたがあななか馴染めず院展への参加は随分と遅れだと記憶しております。

「創作にお手本はナンセンス！」との師のご子息の叱咤激励に試行錯誤の船出（？）となつたのでした。

自己表現だとばかり勝手気儘をしていたと今にして思いますが見守って下さった師の懐の広さにただただ感謝です。

平成12年「現代書三人展」 90×180cm

熊谷宗苑書

21世紀の書

—私の主張—



第64回書道芸術院展「遊心」

大石仙岳書

掲載の写真は平成12年「現代書三人展」（坂本素雪・横田汀華との3人）のものです。常に濃墨、超長峰、細線での静的な情景描写が多いのですが時間の余白、揺れ等で動的な構成を意識した作品でした。

直線的な線、曲線的な両線はともにリズミカルに身体全体を使つて表現する。そして生け花のように様々なオブジェを創作し取り入れる手法も考えると、書の制作がとても楽しくなる。

写真の作品は64回院展の作品です。「島谷弘幸の眼」に選ばれて、存在感のある筆の線と余白の調和が見事。直線とうねりのある筆の動きの跡が実に美しい。と身に余る好評を頂き、曾ての布を細く切つて、モップ用に束ね、ラッカーモーで夢中に書き上げ、紙の山の中で寝すごした過去を思い出す。

制作にあたつて
私の好きな顔真卿の書風の表現で、最も重要な点は、安定感、重厚感、そして構えである。また、表現上の重要な書線の確立は、磨墨の如何にかがわるもので、始筆の切り込み、豊かな

書線は不斷からの古典練習によるもので、スポーツ選手と同様に、日頃の鍛錬が大切だ。辛いけれどやり甲斐のある仕事だとして、集中することだ。

楽しい書の発見

書は線の芸術であるだけに、今いきづく墨の華、現代書にふさわしい墨のアートである姿勢を表現した熱っぽい作品が望ましい。

書道芸術院春華賞



半田 藤扇

この度、書道芸術院春華賞誠にありがとうございました。今年は大雪の中での審査と伺い、選考委員の先生方、さぞかしご苦労があった事と存じます。

今回は、線の書き・躍動感をテーマに取り組みました。作品創りに当つて度々横形式を発表してまいりましたが七言一句を 2×6 に書作するのは至難の技です。筆も意表をついて山兔と山馬の連筆にしてみました。

書く度に線の変化を生じ、楽しくもあり、また迷いもあり、いつになつたら仕上がるのだろうか？ 更に余白と線の響きが不調和の中で調和になればと思いながら……。

第一回春華賞・励ましと更に勉強せよ／を、しっかりと心に受けとめ、名にはじぬよう精進してまいります。

微力ながらも書道芸術院の発展に少しでもお役に立てればと思っております。

今後ともよろしくご指導くださいま

すようお願い申しあげます。

この度は、ありがとうございました。

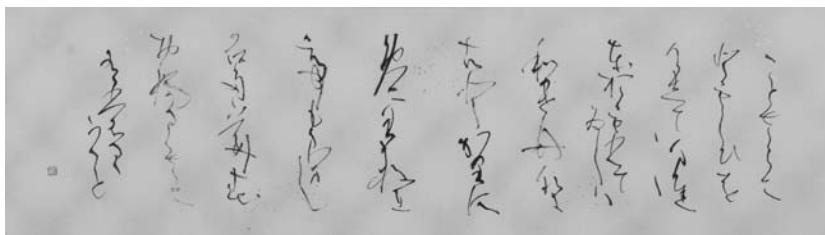
「七言一句」



漢字部 半田 藤扇

第67回書道芸術院展

<1>



松本 泰子

この度、伝統と栄誉ある大賞をいただき驚きと同時に身の引きしまる思いでおります。

辻元理事長先生はじめ選考にあられた先生方に、心より感謝申し上げます。これもひとえに、日頃より熱心に指導して下さるよき師に巡り合えたことだと思っております。朝倉春江先生には書に取り組む姿勢を、下谷洋子先生には技術のみならず、多くの古典に触れる歴史や知識を身に付ける大切さを学ばせていただきました。また、作品を目のあたりにするたびにその感動は尊敬の念となり、憧れとなりました。これからも一步ずつ意に沿えるよう努力して参りたいと思います。恵まれた環境の中で学ぶことが出来感謝しております。この受賞を糧に更に精進したいと思っております。

よろしくお願い申し上げます。



かな部 松本 泰子

書道芸術院準大賞

「司馬君寒獨樂園」



「村上荻風の句」

大西 美貴

阿部 青沙

「泡雪」



遠藤 華香

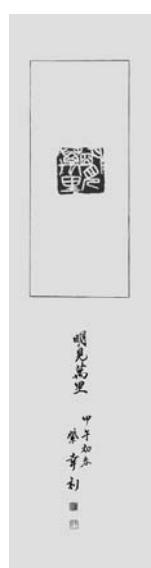
「不知香」

田口 鈴水



「明見万里」

津村 柴幸



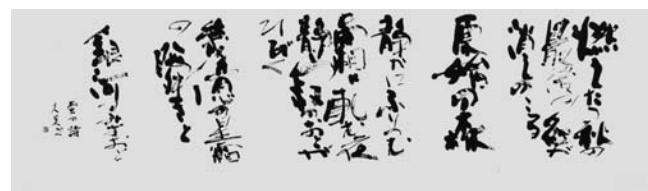
明見万里
甲子年秋月
柴幸印

白雪紅梅賞



「開」

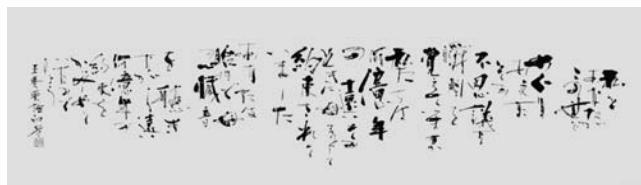
掛水
美翠



「みづうみ」

小野寺久美

「真白きもの」



「王秀英詩」

佐藤 初香

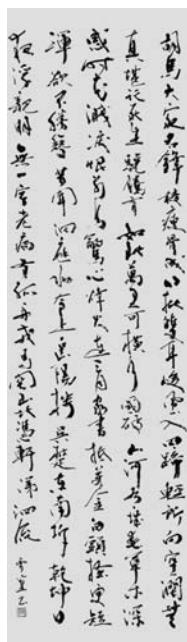
「空山新



衣田
琴草

「空山新雨後，
遙看瀑布挂前川。
飛流直下三千尺，
疑是銀河落九天。」

金濱
珀燁



「五言律詩三首」

橋泉
雪童



「激」

須藤
彰仁

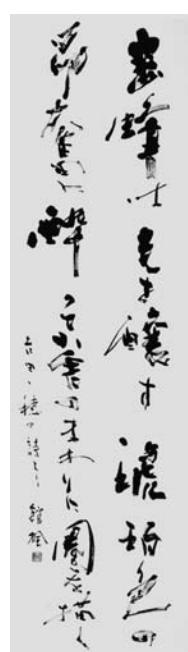


「送沙門弘景」

木村
香翠



野口 加奈



田澤
館楓



小野寺久美

「想
萬物皆有裂痕，那才是光輝的本質。
——史蒂芬·茨威格」

温泉銘（唐 太宗）①

〈解説〉 太宗は唐の第2代皇帝で、父の李淵とともに唐朝を建国し、父の亡き後はいわゆる貞觀の治を行った名君主である。唐朝の燐然たる文化はこの時期より始まった。書の方面では王羲之の書を愛好し、貞觀年間（627—649年）を通じてその真跡を蒐集、整理してこれを保護し、また掲

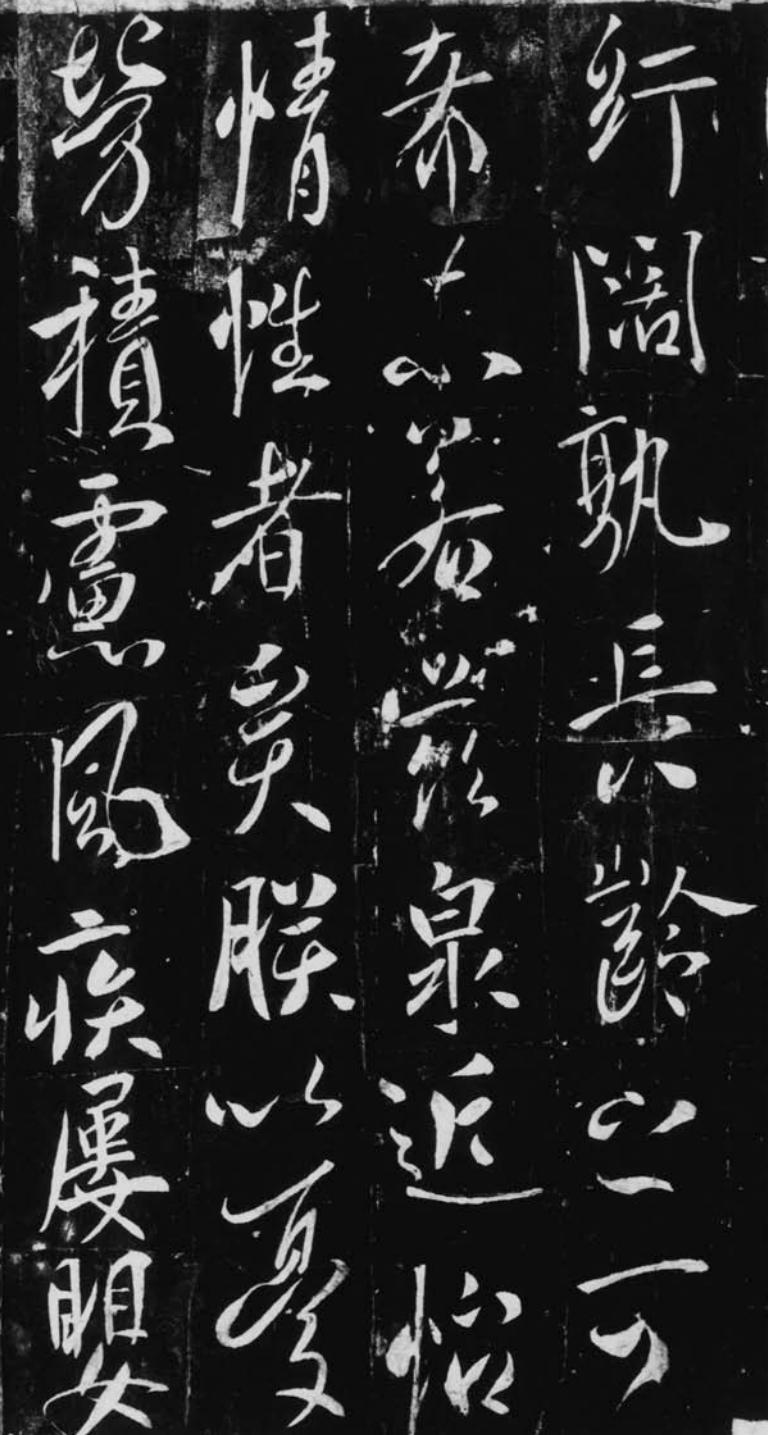
本を作つて臣下に与え、自分自身も書を学んだ。ことに行書、飛白に長じ、「晋祠銘」、「温泉銘」など、筆勢雄渾な行書を残した。歴代帝王中、第一の能書といわれ、また有能な書家を重く用いたことにより初唐の三大家を輩出するなど、書の黄金時代を現出するに至つた。

（編集部）

漢字研究部臨書課題

II（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

※落款を必ず入れる
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみ也可)



(84%縮小)

紓闊。孰長齡之可／希。未若茲泉近怡／情性者矣。朕以憂／勞積慮。風疾屢嬰。

香紙切
(伝 小大君)

①

かすみ身堂
路市久可
ろしふく利
のなく久支
みちつて
まへなるやなぎにうぐひす
かすみたつ可
がのさとのむめの花山お
むねをか可
のやしぬ覽
の久支
みちの御は□

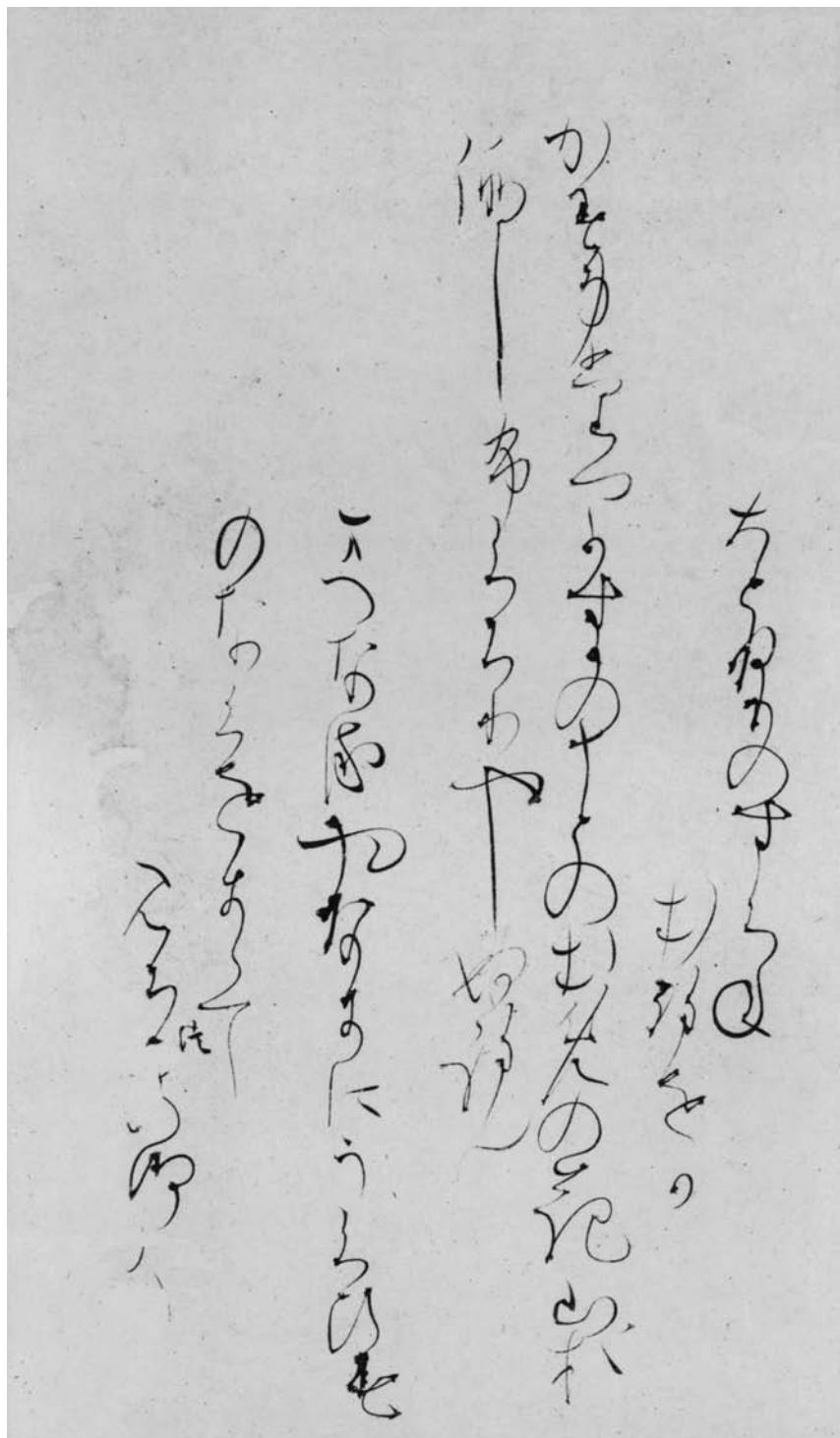
かな研究部臨書課題

- 競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。
(全臨も可)
- 用紙は半紙普通判
(料紙可)
<たて長に使用>
別紙を裁断して貼付も可。
半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。

特別研究部臨書課題

- 毎日展公募サイズ以内・縦横自由
- 左記の掲載以外も可

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)



(93%縮小)

<解説>

香紙切 (こうしぎれ)

とは、完本が伝わらない平安時代の散逸歌集「麗花集」を書写した断簡。三十六歌仙の一人、小大君(こだいのきみ・こおおぎみとも呼ぶ)筆とされるが確証はない。

元は粘葉装冊子本。香紙とは、防虫のため丁字の花弁や蕾を濃く煎じ、その汁で黄色に染めた香染め(丁字染め)の料紙を用いているから名付けられた。書風や簡略化されたかなの字体から11世紀末の書写と推定されている。

習い方解説 (-)

辻元大雲

淑氣(氣)榮(榮)光
(対句集)



書体=自由

今月号から担当します。4字句4回、5字句2回で構成します。初回は春の日の映えた和やかな日を謳う4字句です。鍾繇風の楷書をベースに、ゆったりとした雰囲気で書いてみました。書写体を使用していますが色々字典で調べて、多様な表現にも挑戦してみてください。

筆は羊毫中鋒で、比較的柔らかいものを使用しました。書体は自由ですので参考例にとらわれず、多彩な表現を期待します。

墨・紙なども質により大きく変わります。今回は中国本画仙紙の半紙版を使用、ややにじみを利かせるため、墨は中墨位にしました。月例競書は基礎学習として非常に役立つものです。毎月の課題を如何に表現するか。試行錯誤の中から基礎学習力が培われます。

習い方解説（一）

小伏小扇

春山如笑
（春山笑うが如し）
（郭熙）

初唐の三大家として書名の高い
虞世南の孔子廟堂碑を基に書いて
みました。

虞世南の書は、品格が高く、の
びのびとして穏やかな感じがしま
す。運筆の速度は、ゆるやかで、
遠勢的な動きが、のびやかさを生
じます。

送筆部や転折は丸味をおびて、
円筆の特徴がよく出ています。
大切なことは、運筆のリズムを
体得することと、4文字の調和で
す。



春山如笑 よみ（春山笑うが如し）

書体＝楷書

習い方解説 (-)

春ぐれば雁かへるなり白雲の道ゆきぶりに言やつてしまし

(古今集 脊恒)

かなの散らし書きに對して行書きとは、手紙のように行を連ねて書くことを指します。

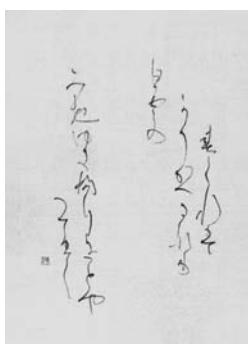
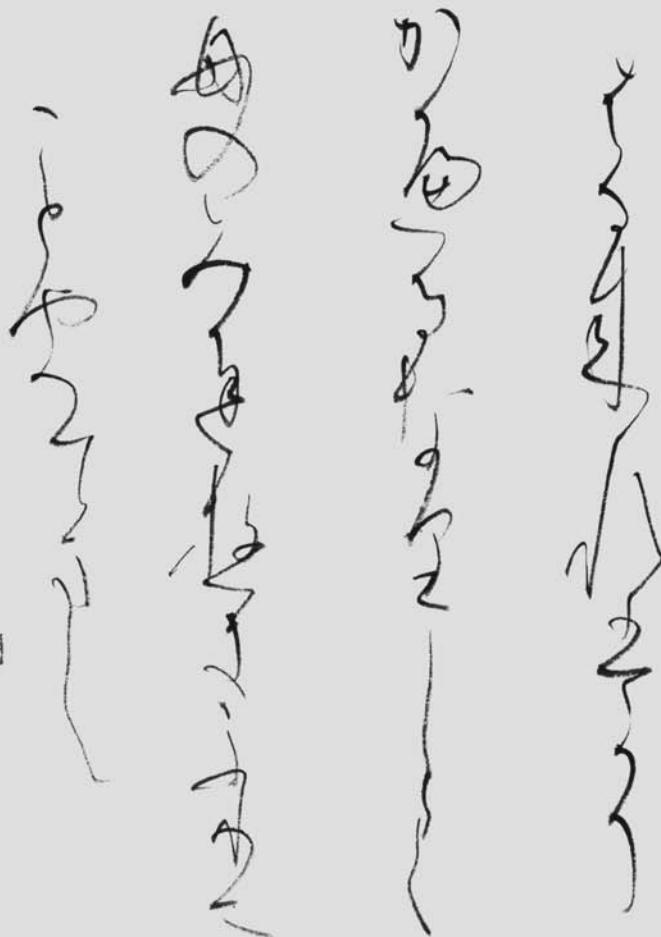
古筆では平安時代の三色紙以外、ほとんどの歌が2~4行の行書きで書かれています。行書きの行の中で、文字がどのように変化して動きバランスしていくかを、しつかりと古筆から汲み取る勉強が必要です。かなは感覺だけで書けるものではありません。参考手本を模倣するだけでも寂しきります。

そこで6回に亘りその一部を解説していきます。
初めにタテ画に注目(必ず古筆で参照)。タテ画の方向を見ましょう。微妙にズレて進みます。この微妙かなズレが、かなのがめらかで柔らかい流れを生むのです。タテ画を再認識してみましょう。(雁が白雲の中を飛んでゆくついでに、友人に便りを言づけよう)

よみ方 は(者)るく(来)れば(盤)か(可)りかへ(遍)るなり(里)しらへ(久)も(母)の
みち(連)ゆ(遊)き(支)ぶり(利)に()ことやつてしま(万)し

創作

△参考△

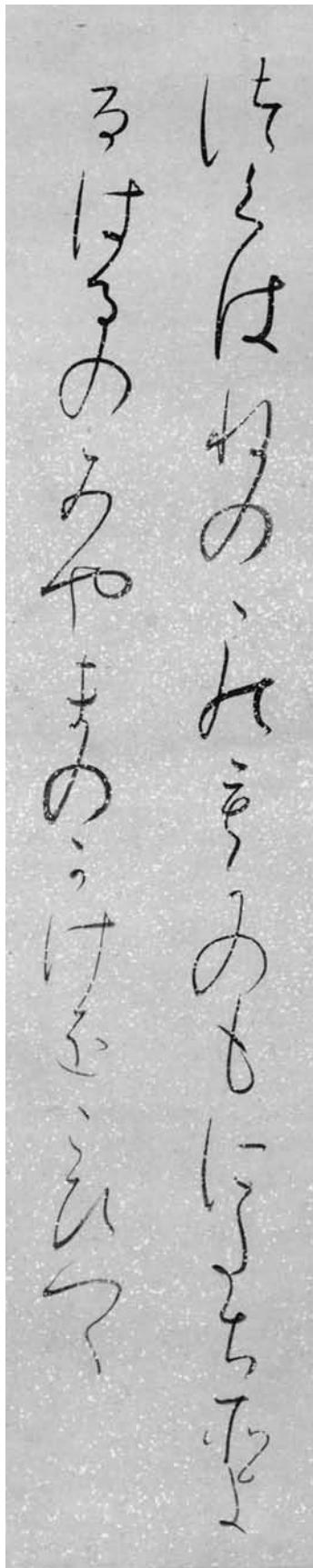


うたひかへりまし
うたひかへりまし

かな規定 秀級以下【五月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 つ(徒)(く)(久)ばねのこの(能)(も)(毛)か(引)(可)のもにた(多)ちぞ(所)よ

るはるのみやまのか(可)げをこひつゝ

かな条幅規定【五月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

天海矩子選書

習い方解説 (一)

天海矩子

咲かぬまの花には雲のまがふとも
雲とは花の見えずすわあらなむ

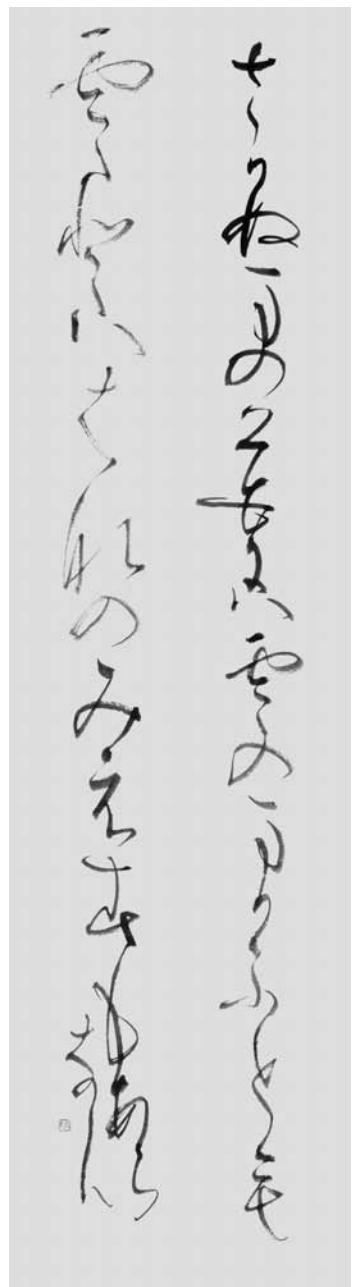
(西行)

最も基本的な2行書きです。

含墨し、じっくりと「さ可ぬ」を書きます。2行目は対比の意味もあり、漢字で大きくゆつたりし「の」が3ヶ所あるので、同じ形にならぬよう。墨量は濃墨過多にせず、すっきり仕上げて下さい。

創作

よみ方 さか(可)ぬま(万)の花に(尔)は(八)雲のま(万)か(引)ふとも(毛)
雲と(登)は(八)は(者)な(那)のみえす(春)もあらなむ(毛)



漢字条幅規定 初段以上 【五月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

小竹石雲選書

習い方解説 (一)

小竹石雲



桃花春霞千樹 暖日東風錦一川
(桃花春霞千樹 暖日東風錦一川)

書体=自由

桃が霞のたなびくように花を咲かせ、その花影を映した錦のような波が春風に吹かれている。行草で伸びやかに書きました。1行目の「霞」、2行目の「錦」を見せ場とし、字間の粗密と線の太細の変化とがより効果的になるよう工夫しました。そうすることでき見せ場とし、字間の粗密と線の太細の変化とがより効果的になるよう工夫しました。そうすることでき余白もいき明るくなっています。筆は使いこんだ羊毛筆です。

習い方解説 (一)

小浜大明

選書

漢字条幅規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小浜大明 選書



澄心得妙観
(澄心得妙観を得る)

(朱熹)

書体=自由

今月から担当いたします。4月は多くの人にとってスタートの月でもあります。そこで楷書から始めてみました。「澄心妙観を得る」澄みきった心で物事を見れば、正しい見方ができる。の意です。

書作にあたり、顏真卿の筆法を念頭に、直筆と側筆を融合させ、極端な肥瘦をとり入れ表現してみました。参考にしてください。

大明

國

習い方解説 (一)

小島孝予

古池や蛙飛こむ水のあと
芭蕉は蛙が水に飛びこむ音を
聞いて古池を思い浮かべた。つまり
現実の音をきっかけにして、心の世
界が開けた現実志の句である。

孝予書

書体=自由

「月日は百代の過客にして行かふ年
も又旅人也……」日本を代表する大詩
人松尾芭蕉の紀行文『おくのほそ道』。
古池の句で芭蕉はそれまで言葉遊びで
しかなかつた俳句に初めて心の世界を開き、
その3年後にかけたのが『おくのほそ道』
の旅でした。芭蕉46歳、3月春に江戸を出発、8月に大垣に到着。全行程約600里、約150日間の旅でした。
(NHK 100分 de 名著 松尾芭蕉 おくのほそ道 長谷川櫻著より抜粋)
この度は松尾芭蕉の世界を題材にして、
ペン字と共に学びたいと思います。
最近美文字ブームで「書く」ことが見直されています。「きれいに書きた
い、でもどうしたら?」まずは基本に沿って正しく丁寧に書くことです。そ
のためには日常の中で目にする文字に
関心をもつこと、止め・はね・バランスなどちょっと意識して見ることから始めてみましょう。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

今月の

ホープ作品
各部総評

No. 634

かな部 師範 山崎 桜江
少々怪しい字もあるが、参考手本をバランスよく拡大した好例。
◎かな部総評 同じ形式で書く場合は、拡大コピーを利用したい。
周りが空きすぎると余白にもならず、ただ貧弱なだけです。(洋子評)

漢字条幅部 師範 種谷 森城
いつもながら木簡帛書風の作。切れ味よくリズミカルな運筆で、爽快にまとめた安定感ある作。◎漢字条幅部総評 上下級共2行表現で安定作多し。書体の選択と共に書風の変化をもつと追求したい。用具も色々替えて。(大雪評)



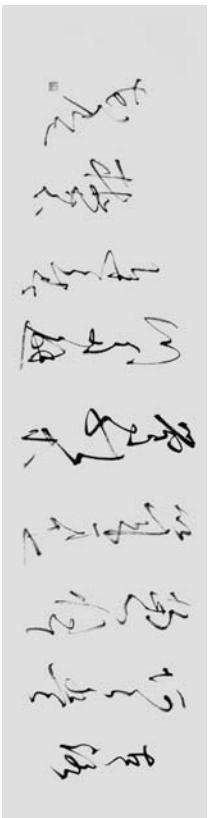
現代詩文書部 特選 藤田 雅子

言葉のとおり紙面が透き通るよう輝いています。鍛え上げた牙えの

リズムも伸びやかで表情が豊か。
◎現代詩文書部総評 構成だけで、空間も見事。は、気持ちが伝わりません。様々な線質を学びましょう。(鄭雲評)



かな条幅部 師範 新谷 嶺泉
抑制をきかせて書きはじめ、大胆に思える中央部で墨継ぎして、作品に斬新さを加味した。典雅です。



◎かな条幅部総評 「木」のルビの誤読多出。釈文、解説はよく読むこと。紙面の最後が無駄になつた人多く、再考を。(明子評)

前衛書部 特選 阿部 雅志

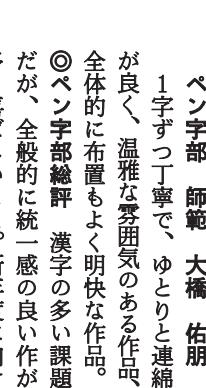
收筆までの動きに上品を感じ、これが抑制の利いた装いを創出。

◎前衛書部総評 今回は全般的に、表現力に空回り感が少なく一段とうれしく思います。(慧香評)



ペン字部 師範 大橋 佑朋
1字ずつ丁寧で、ゆとりと連绵が良く、温雅な雰囲気のある作品。全体的に布置もよく明快な作品。だが、全般的に統一感の良い作が多く喜ばしいこと。新年度に向けて益々の研鑽を望む。(和楓評)

◎ペン字部総評 漢字の多い課題が良くなっています。新年度に向けて益々の研鑽を望む。(和楓評)



漢字部 師範 重村 恵月

董其昌に「づく王鐸 黄道周 倪元路、張瑞圖、傅山らの明末清初の能書家たちの作風は、作者自身の情念に直結したようすな一種犯しがた威力を感じさせる点に特色」がある。佐朋書園



現代性を感じる漢字作品。濃墨が生かされて細い線と渴筆が美しい。「生」に今一つ工夫がほしい。による文字の確認が必要。誤字は残念。(翠風評)

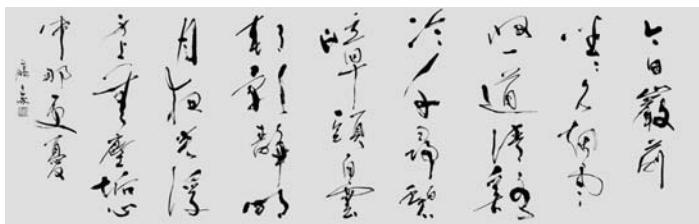
今月の

特別研究部 優秀作品(特選)

現代詩文書

(白珠) 西山裕人

「川端茅舎の句」



西川藤象書

57×180cm



西山裕人書

180×50cm

◆ 絵を見るように拝見。リズムある墨量変化が魅力的です。内面の表現力と技術力が見事で好ましい。

(明子評)

◆ 呼吸を整え体で筆を運ぶその動きが紙面をまとめている。終りの句になると少し細やかになり過ぎか。

(倫子評)

漢字
(もく)

西川藤象

「五言律詩」

◆ 細線を基調とした明るく爽やかな作。軽妙なリズムで楽しい雰囲気を感じる。骨格の確かさがあれば尚。

(大雲評)

◆ 淀味のない筆の流れ、墨色が紙面を押し一層躍动感を与えてくれる。作品を書きながら口ずさんでる感。

(明子評)



本郷谷恵

148×40cm

臨書 (百谷) 本郷谷恵

「風信帖」

◆ 墨の粘度に支えられた厚みのある線は心をからめ捕りに入る。見事、中ほどに少し速度も欲しい感じ。

(明子評)

◆ 濃墨のねばりと艶を活かし、暢達した臨書。原帖の觀察が細部まで届き、まとまりある作である。

(大雲評)

◆ 風信帖の重厚な点をとらへて深さがある。やや一字一字にこだわり過ぎたか。流れがほしい氣もある。

(蒼玄評)

◆ 2本組筆使用か。大胆な破筆の効果でリズムを生み、中央部の盛り上がりが際立っている。

(大雲評)

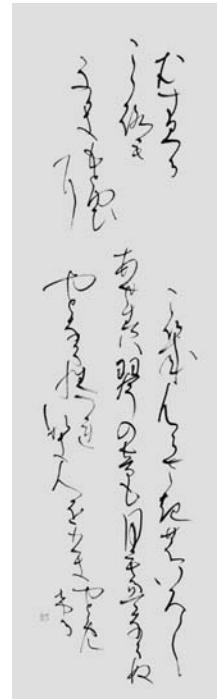
◆ 雪を中心上下に広がる構成は見事。上部に比べ下部の墨量は少々多すぎたか。若さ溢れる書、秀作。

(蒼玄評)

(倫子評)

かな (如月) 治田芳江

「むすびつる」



治田芳江書

180×53cm

◆余白美を研究しての難しい構成への挑戦は敬服します。さらには、墨量の調整を少し変えてみてはいかが?

(明子評)
◆的確な運筆で安定した作。渴筆がやや不足気味だが、更に細部の冴えと共に練磨を重ねてほしい。

(大雲評)

◆切れの良い線でよどみなく流れれる。少々書き過ぎの感もある。下部の字形を単純にすると明るさも出るか。

(蒼玄評)
◆句の流れを歌うような雰囲気でまとめてありリズムを感じさせてくれる。細い線の表情が美しい。

(倫子評)
◆句の流れを歌うような雰囲気でまとめてありリズムを感じさせてくれる。細い線の表情が美しい。

創作の部(35点)	漢字 - 11点
前衛 - 8点	漢字 - 31点
篆刻 - 0点	かな - 2点
現代 - 14点	かな - 10点



阿部雅悠書

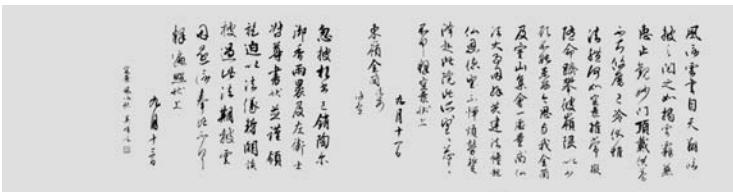
180×60cm

前衛書 (秀恵)

阿部雅悠

「律動」

- ◆細い線の構成で筆の運びがゆったりとした動き。まとまりた形として滲みと合わせ大きな構成でよい。(倫子評)
- ◆にじみのある墨を使い勢い良く空間に響く造形は音楽を感じさせる。筆が小さいせいか破筆が気になる。(蒼玄評)
- ◆中心の線とにじみと飛沫による構成はいかにも律動。紙面を越えて広がり、突き抜ける奥行きは楽しい。(明子評)
- ◆独特のにじみと飛墨が対照的な雰囲気を醸し出し、紙面全体に動きを与えていている。下部の線やや弱いか。(大雲評)



鈴木英晴臨

35×135cm

臨書 (安波)

鈴木英晴

「風信帖」

◆1通目と2通目を忠実に臨書してみごと。にじみを抑えた用紙をうまく活かした的確な臨書姿勢を買う。(大雲評)

◆筆力の流れ、墨色の変化、風信帖を中心くいばかりに表現している。その変化を速度は遅いが忠実に実行。(倫子評)

◆真面目にとらえた臨書だが手紙文とすることを考えると行のゆれがほしい。臨書は一字でなく全体を。(蒼玄評)

◆丁寧さが伝わる美しい臨書です。淡淡と書き、広さと深遠を感じさせ、格調と高さを知らしめる作です。(明子評)

創作の部(35点)	漢字 - 11点
前衛 - 8点	漢字 - 31点
篆刻 - 0点	かな - 2点
現代 - 14点	かな - 10点

創作の部(35点)	漢字 - 11点
前衛 - 8点	漢字 - 31点
篆刻 - 0点	かな - 2点
現代 - 14点	かな - 10点

総出品点数
66点

〔特選候補者〕
(創作の部)

〔漢字〕
(現代詩)

墨宣 鑄木 梅道
花莖 高橋 清琳

「かな」
書泉京 絹子

佐希田中 梢翠

游水 荒川 空華

山王 鈴木 春江

大雲 池田 沙靜

清流 渋谷 充律

〔臨書の部〕
〔漢字〕

英峰 渡邊

大雲 小川

香扇 多佳

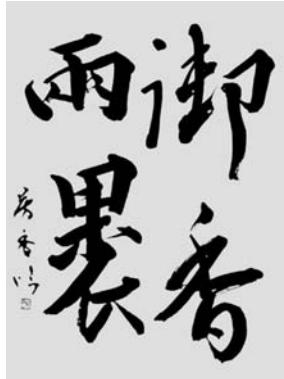
大雲 宮原 白舟

香扇

漢字研究部
(風信帖)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品



亀井芳香

漢字研究部 特選 亀井 芳香
原帖の特徴をみごとにとらえた素晴らしい臨書作品です。線質も骨力ある上に澄み切っており、気持ちの余裕を感じさせます。4文字目がやや右上に上がっているものの、落款の収め方で作品効果を生み出しているところが心憎いです。

◎漢字研究部総評

風信帖の中で2通目の「忽披帖」は顏真卿よ

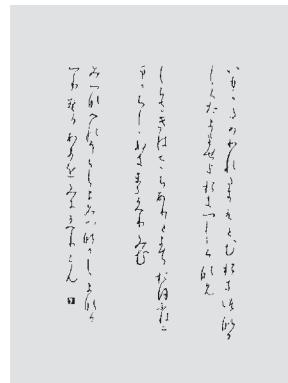
り王羲之の書法が強めに出た書風ですが、空海の特徴でもある線の厚みは変わりません。いわゆる三蹟の線質とは異なっていますのでその表現が難しかったと思いません。今回は特に誤字が目立ちました。線が太いので筆脈を追うことが難しかったと思いますが、そのように誤字を確認して字典で調べて書くようになります。「忽」「枉」「銷」「累」「墨」に誤字が多くありました。



かな研究部
(藍紙本万葉集)

選評 善養寺 紅風

今月のホープ作品



武山花源

◎かな研究部総評
全体的によく書かれていましたが、見を等、誤字を散見し、書く前に眺めて、わかりにくい箇所は辞典や、拡大鏡などで調べてから書くと良いでしょう。

飛芝清 嘉玉英 美佳一
龍香耀 江華子 子月琴 秋雨雲

正有大生松秀治五紅生石千木大生大竜東大清豊正竜遷一硯英大有
秋華阪だ大村秀古野森鈴藤大波堀黒豊徳高根島礁小小伊後深中宮吉堀武
橋川駒十井木作矢中田木本飼谷江柳田橋田橋津山貝林野藤澤村澤瀬切山特選
知鹿翠玉潤喜睦智喜道愛幸竹翠萩雅飛芝清嘉玉英知佳一草彩幸花
洋津萩佳翠玉子子花栄賣枝子子広惠石華泉葉玉峯泉龍香羅江華子子月琴秋雨雲源
もく佳竹蓮竹上竜紅英石正樹上千書春玉竜紅正蕙竜戸大千、大艸竜安澄たA澄A
美紅扇泉苑峰習華原泉葉泉汀松泉瑠華書泉出版葉"雲玄泉波春かI春I
青木作横遊山山森茂松東早中戸都渡田泉須佐坂後小小河高河龜加小小梅生宇伊
藤連蘭紅炎令龍真龍愛敏梅惠博ど紀耶龍香麻里良千萩惠玄和紫龍久輝代美春寿子
舟雅秀子博蘭峰石子艸子舟衣宝舟美美泉代江子城敬風惠美峯子子華子

琇も研高昌華玉も高長蓮高前A土幕秀玉麗玉大調遊艸秀も大立土郷硯松四硯高樹翠詢奥枝雲木
韻く葉翠入陵苑祥川崎月紅陵橋I気張畠松澤松布雲玄水く雲精氣州水村谷水苑原吟扁田苑曜
荒新足浅川運米吉山森松增本堀別藤平林秦長橋橋野西中富戸積千田宅柴鹿佐佐坂酒紺近小小
木井立川運田崎本田浦田井府村山野谷谷本本沢澤澤部田田中田藤々巻井野藤林林沼持江本本崎井
洋藤万君子雪琇子和翠桜藤玉佳美法信昌優玉喜千紅都蕙彩雅白真都翠志詠雅麗知遊闇鑑純初霜幸南紫
絆芳翠茂春祥鶴子綾江子谷江子雪子子華子峰翠霞子雅峰子子風雲香鈴子泉江子芳苑子山窓子風風
澄書原A明光弘八皓玉千た春竜竹澄蕙た詢正玄高幕生彩初生鬼蘭竹大秀筑こ高澄大秀高竜う玉雲千やN筑
春游綠I漢昭舟雲映松葉か汀泉美春書か扇華象崎張大香大高鼎扁阪水桜だ真春阪明真原の川溪葉まH桜戸祥大游る葉翠
新庄志清嶋崎済七重塩紫猿佐櫻櫻齋小河工木木北北岸菊蘆神川河金門大大梅宇岩岩今今今猪伊伊伊市板石石飯飯安
行司水水谷條信澤雲渡々田田藤林野藤原下村村又田池池田崎岡岡脇西石山井根崎上村閑井又東藤藤川垣橋川高田藤
内由与木満咏起紀标由美裕裕美煌簾和龍智翠雅白香輝都欣惠春東美善典優星萩信一星久楠惠洋郁貴心花溪理京良悦紫青さ桂幹光楊子
子艸子子香子美映紅月右子舟香子董峠子子高子子扇美子美祥子麗峯子子泉華枝仙扇子佑子泉鳳子華生彩風子

白京東明青北風樹千玉椿春菊こ皓幕千大詢有澄大や前た上大詢泉大正上石大泉翠大春や樹幕澄竹青高秀竜華安土若
選露橋入漢峰陸書原葉川翠汀月だ映張葉阪局秋春阪ま橋か泉阪局会阪華泉舟"阪会柳阪丁ま原張春局峰陵水泉仙波氣松
161渡吉吉吉吉遊遊山谷安富宮三松松松程福深廣平春浜浜野永永中内富富辻近田辰田高高高平住砂鉢鉢杉菅沢百合子
名氏姓田田佐口知鳴鳥千十裕眞滿氏名略重佑眞鶴光四香一鈴美砂津英洋敏映翠翠白惠キ清美美勝永陽香陽時小宏ゲ古扇萩洋柳良光哲志賢幸小杏和洋利智や祥
子子理子治子風采風子子枝明子子華舟景鈴子子洗幸和美羹一織詢子紀枝子塘水彩子芳子子朋雲苑秋華子子惠子風子